

3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 活性化に向けた目標

目指す中心市街地の都市像である「ここにしかない時間の過ごし方をつくり、日常的に訪れたいまち」の実現を目指し、2つの基本的な方針に基づき、3つの目標を設定して、取り組みを進める。

目指す中心市街地の都市像	基本的な方針	目標
ここにしかない時間の過ごし方をつくり、日常的に訪れたいまち	時間を消費したくなるような魅力づくり	① 滞在時間の向上
		② 来街者数の増加
	選ばれるまちなか暮らし	③ まちなか暮らしを選択する人の増加

[2] 計画期間

計画期間は令和5年4月から令和10年3月までの5年間とする。

[3] 目標指標の設定

3つの目標毎の達成状況を毎年計測するため、目標指標を設定する。

(1) 目標①「滞在時間の向上」に関する目標指標

金公園地下駐車場の年間総利用時間

本計画では、柳ヶ瀬を核に時間を消費したくなるような魅力づくりによって滞在時間の向上を図ることを基本的な方針としている。

滞在時間を測定する指標としては、アンケート調査など様々な方法があるが、今後の人口減少社会における自動車交通量の減少が予測される中であっても、本市の自動車交通分担率は高い割合で推移することが予想されている。

こうした状況の中、本計画では中心市街地における滞在時間の状況を表す目標指標として、金公園地下駐車場の年間総利用時間を設定する。

金公園地下駐車場は柳ヶ瀬に隣接した市営駐車場であり、柳ヶ瀬周辺における代表的な駐車場であることから、調査対象とする。

3期計画では創業数を目標指標としたが、それらの魅力に加え、滞在性の向上などを含めた時間を消費したくなるような魅力を集積させることが必要との考えから、滞在時間の状況を表す指標へと変更した。

(2) 目標②「来街者数の増加」に関する目標指標

歩行者・自転車通行量
[休日と平日の平均] (中心市街地の 21 地点)

3 期計画と同様、来街者の動きと量を把握する指標として、歩行者・自転車通行量を目標指標に設定する。通行量調査を休日と平日に行い、中心市街地の 21 地点の合計から、休日と平日の平均を算出する。

(3) 目標③「まちなか暮らしを選択する人の増加」に関する目標指標

居住人口の人口動態

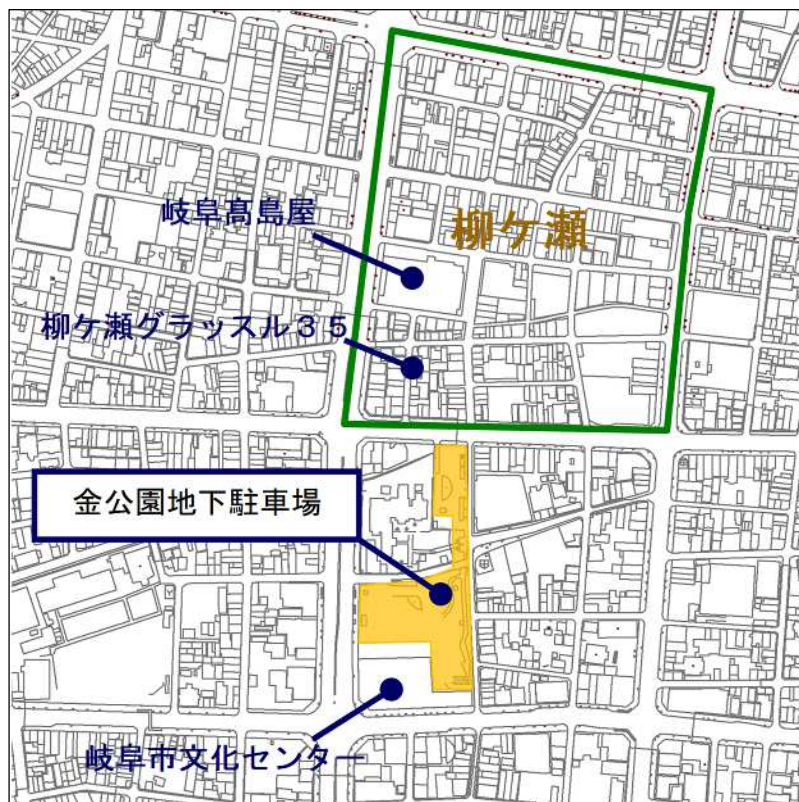
暮らしたくなるような環境づくりによって、まちなか暮らしを選択する人の増加を目指す。社会増減数のみでは、人口に与える影響を把握できないことから、3 期計画と同様に自然増減数を含めた人口動態を指標に設定する。

[4] 目標値の設定

(1) 「金公園地下駐車場の年間総利用時間」に関する目標値の設定

基準値	目標値
268,628 (時間/年) (R3 年度)	318,000 (時間/年) (目標年度：R9 年度)

【金公園地下駐車場】

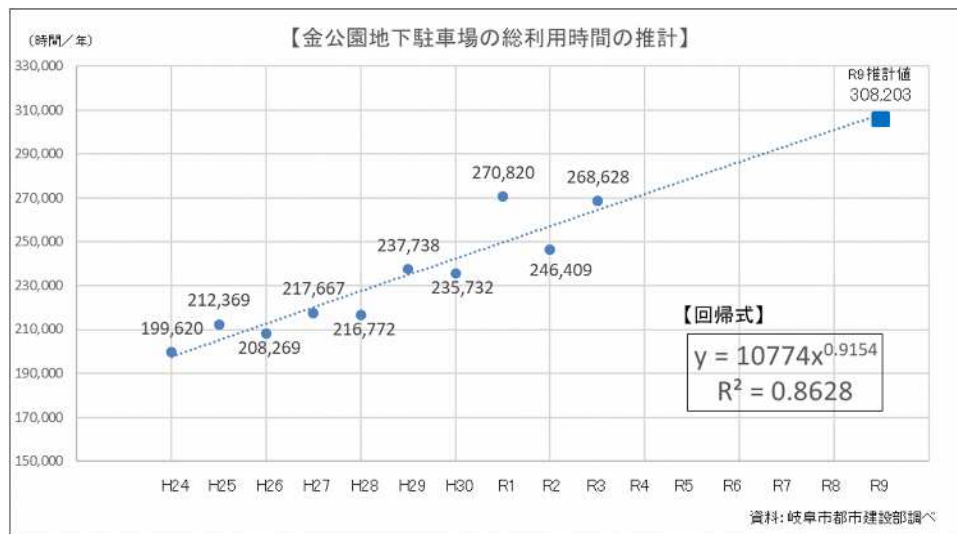


<目標設定の流れ> 令和3年度の数値を基準値とし、

- ①過去の傾向から、事業を実施しなかった場合の令和9年度の推計値を算出する。
- ②事業による効果を算出する。
- ③令和9年度の推計値に事業による効果を加え、令和9年度の目標値として設定する。

①目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）

過去 10 年間（平成 24 年度～令和 3 年度）の傾向を回帰式にあてはめて、令和 9 年度の数値を推計する。



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
年間総利用時間	199,620	212,369	208,269	217,667	216,772	237,738	235,732	270,820	246,409	268,628						
回帰推計値	197,616	205,140	212,639	220,114	227,565	234,994	242,401	249,787	257,153	264,499	271,827	279,137	286,429	293,703	300,961	308,203

令和 9 年度の推計値（事業を実施しなかった場合）

308,203（時間/年）

②事業による効果

＜算出の考え方＞ 金公園地下駐車場において、

- 1) 事業により増えた利用者による増加時間を算出
- 2) 事業により増えた利用者のうち、柳ヶ瀬を回遊することによる増加時間を算出
- 3) 現状の利用者の滞在時間が増えたことによる増加時間を算出
- 4) 1)～3)を合計し、事業による総利用時間の増加を算出

(ア) 柳ヶ瀬広場整備事業

1) 事業により増えた利用者による増加時間を算出

1) - 1 現状の利用者数

現状の旧長崎屋北側スペースの利用者数について、平日休日各1日に目視で調査した結果（令和4年9月実施）は次のとおり。

平日 117 人/日、休日 188 人/日、平均滞在時間 7 分/人

1) - 2 柳ヶ瀬広場利用者数

現状の旧長崎屋北側スペースは約 200 m²、整備される柳ヶ瀬広場の面積は約 1,300 m²であり、6.5 倍の大きさとなる。そのうち、整備後の広場の有効面積を 90% とする。

面積増加分利用者数が増加するという仮定の下、以下の計算により柳ヶ瀬広場の 1 日当たり利用者数を推計する。

<平日> 117 (人/日) × 6.5 × 0.9 ≒ 684 (人/日)

<休日> 188 (人/日) × 6.5 × 0.9 ≒ 1,100 (人/日)

1) - 3 事業により増えた利用者数

推計した柳ヶ瀬広場の 1 日当たり利用者数から、現状の旧長崎屋北側スペースの利用者数を引き、事業により増えた利用者数を算出する。

<平日> 684 (人/日) - 117 (人/日) = 567 (人/日)

<休日> 1,100 (人/日) - 188 (人/日) = 912 (人/日)

R9 年度の平日、休日の日数をかけて、年換算とする。

<平日> 567 (人/日) × 247 (日) (R9 年度平日日数) = 140,049 (人/年)

<休日> 912 (人/日) × 119 (日) (R9 年度休日日数) = 108,528 (人/年)

1) - 4 事業により増えた利用者による金公園地下駐車場利用台数

事業により増えた利用者数の年換算のうち、金公園地下駐車場を利用する台数を推計する。

<平日>

事業により増えた利用者の中、交通手段が自動車の人を算出。「平成 28 年度 市庁舎跡地活用に関するアンケート」より 57.4% を採用

140,049 (人/年) × 57.4% ≒ 80,388 (人/年)

交通手段が自動車である、事業により増えた利用者が利用する台数を算出する。

「全国道路・街路交通情勢調査自動車起終点調査 (H27)」より得られるブロック別平均乗車人数を採用。平日は 1.27 (人/台)、休日は 1.64 (人/台)

80,388 (人/年) ÷ 1.27 (人/台) ≒ 63,298 (台/年)

事業により増えた利用者の車の内、金公園地下駐車場の利用台数を算出する。
金公園地下駐車場の収容台数は 145 台、柳ヶ瀬周辺の駐車場収容台数は 2,126 台（岐阜市駐車場実態調査 H30）であるため、 $145/2,126$ より約 7%とした。
 $63,298$ （台/年） $\times 7\% \doteq 4,431$ （台/年）

<休日>

先述の平日と同じ手順で算出する。

$108,528$ （人/年） $\times 57.4\% \doteq 62,295$ （人/年）

$62,295$ （人/年） $\div 1.64$ （人/台） $\doteq 37,985$ （台/年）

$37,985$ （台/年） $\times 7\% \doteq 2,659$ （台/年）

<平日休日合計>

$4,431$ （台/年） $+ 2,659$ （台/年） $= 7,090$ （台/年）

1) ー5事業により増えた利用者による増加時間

整備される柳ヶ瀬広場の利用時間を、「みんなの広場カオカオ」を対象にした位置情報データを参考に 30 分と設定。

$7,090$ （台/年） $\times 30/60$ （時間/台） \doteq **3,545（時間/年）**

2) 事業により増えた利用者のうち、柳ヶ瀬を回遊することによる増加時間を算出

「金公園に関するアンケート調査（R2）」において、公共施設である金公園来園前後の行き先は、柳ヶ瀬が 39.65%。

事業により増えた利用者のうち、柳ヶ瀬において飲食店及び小売店のいずれか 1 店舗 45 分（飲食店滞在時間を 1 時間、小売店滞在時間を 30 分とした場合の平均）滞在したと仮定すると、

$7,090$ （台/年） $\times 39.65\% \times 45/60$ （時間/台） $=$ **2,108（時間/年）**

3) 現状の利用者の滞在時間が増えたことによる増加時間を算出

現状の旧長崎屋北側スペースの利用者数を計測する。

平日 117 人/日、休日 188 人/日、平均滞在時間 7 分/人

令和 9 年度の平日、休日の日数をかけて、年換算とする。

<平日> 117 （人/日） $\times 247$ （日）（R9 年度平日日数） $= 28,899$ （人/年）

<休日> 188 （人/日） $\times 119$ （日）（R9 年度休日日数） $= 22,372$ （人/年）

現状の旧長崎屋北側スペースの利用者による、金公園地下駐車場を利用する台数を算出する。

<平日>

先述と同じ手順で算出する。

$$28,899 \text{ (人/年)} \times 57.4\% \doteq 16,588 \text{ (人/年)}$$

$$16,588 \text{ (人/年)} \div 1.27 \text{ (人/台)} \doteq 13,061 \text{ (台/年)}$$

$$13,061 \text{ (台/年)} \times 7\% \doteq 914 \text{ (台/年)}$$

<休日>

$$22,372 \text{ (人/年)} \times 57.4\% \doteq 12,842 \text{ (人/年)}$$

$$12,842 \text{ (人/年)} \div 1.64 \text{ (人/台)} \doteq 7,830 \text{ (台/年)}$$

$$7,830 \text{ (台/年)} \times 7\% \doteq 548 \text{ (台/年)}$$

<平日休日合計>

$$914 \text{ (台/年)} + 548 \text{ (台/年)} = 1,462 \text{ (台/年)}$$

現状の旧長崎屋北側スペースの平均滞在時間が約 7 分/人、整備後の柳ヶ瀬広場の利用時間を 30 分と設定すると、23 分/人増加。

現状の旧長崎屋北側スペースの利用者の柳ヶ瀬広場整備後の滞在時間が増えたことによる増加時間を算出。

$$1,462 \text{ (台/年)} \times 23/60 \text{ (時間/台)} = \boxed{560 \text{ (時間/年)}}$$

4) 1) ~ 3) を合計し、事業による総利用時間の増加を算出

事業により増えた利用者による増加時間…3,545 (時間/年)

事業により増えた利用者のうち、柳ヶ瀬を回遊することによる増加時間…2,108 (時間/年)

現状の利用者の滞在時間が増えたことによる増加時間…560 (時間/年)

1) ~ 3) の合計 $\boxed{6,213 \text{ (時間/年)}}$

(イ) 岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業

1) 事業により増えた利用者による増加時間を算出

1) - 1 施設別利用者数

岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設については「高島屋南地区公共施設（健康・運動施設）管理運営計画」、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設については「岐阜市高島屋南地区公共施設整備事業基本計画」より、年間利用者数は以下のように設定されている。

岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設 : 55,500 (人/年)

岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設 : 80,000 (人/年)

1) - 2 事業により増えた利用者数

事業により増えた利用者を算出するため、岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設については、柳ヶ瀬健康ステーションの年間利用者数 7,150 (人/年) (R3) を差し引いた利用者数にて算出する。

$$55,500 \text{ (人/年)} - 7,150 \text{ (人/年)} = 48,350 \text{ (人/年)}$$

【岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設】

$$\text{＜平日＞} 48,350 \text{ (人/年)} \times 247/366 \doteq 32,630 \text{ (人/年)}$$

$$\text{＜休日＞} 48,350 \text{ (人/年)} \times 119/366 \doteq 15,720 \text{ (人/年)}$$

【岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設】

$$\text{＜平日＞} 80,000 \text{ (人/年)} \times 247/366 \doteq 53,989 \text{ (人/年)}$$

$$\text{＜休日＞} 80,000 \text{ (人/年)} \times 119/366 \doteq 26,011 \text{ (人/年)}$$

1) - 3 事業により増えた利用者による金公園地下駐車場利用台数

先述の柳ヶ瀬広場整備事業と同様に算出。

【岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設】

$$\text{＜平日＞} 32,630 \text{ (人/年)} \times 57.4\% \doteq 18,730 \text{ (人/年)}$$

$$18,730 \text{ (人/年)} \div 1.27 \doteq 14,748 \text{ (台/年)}$$

$$14,748 \text{ (台/年)} \times 7\% \doteq 1,032 \text{ (台/年)}$$

$$\text{＜休日＞} 15,720 \text{ (人/年)} \times 57.4\% \doteq 9,023 \text{ (人/年)}$$

$$9,023 \text{ (人/年)} \div 1.64 \doteq 5,502 \text{ (台/年)}$$

$$5,502 \text{ (台/年)} \times 7\% \doteq 385 \text{ (台/年)}$$

＜平日休日合計＞

$$1,032 \text{ (台/年)} + 385 \text{ (台/年)} = 1,417 \text{ (台/年)}$$

【岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設】

<平日> 53,989 (人/年) × 57.4% ≒ 30,990 (人/年)

30,990 (人/年) ÷ 1.27 ≒ 24,402 (台/年)

24,402 (台/年) × 7% ≒ 1,708 (台/年)

<休日> 26,011 (人/年) × 57.4% ≒ 14,930 (人/年)

14,930 (人/年) ÷ 1.64 ≒ 9,104 (台/年)

9,104 (台/年) × 7% ≒ 637 (台/年)

<平日休日合計>

1,708 (台/年) + 637 (台/年) = 2,345 (台/年)

1) - 4 事業により増えた利用者による増加時間

柳ヶ瀬健康ステーション、ドリームシアター岐阜を対象にした位置情報データを参考に、岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設は 40 分、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設は 30 分と設定。

【岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設】

1,417 (台/年) × 40/60 (時間/台) ≒ 944 (時間/年)

【岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設】

2,345 (台/年) × 30/60 (時間/台) ≒ 1,173 (時間/年)

合計 944 (時間/年) + 1,173 (時間/年) = **2,117 (時間/年)**

2) 事業により増えた利用者のうち、柳ヶ瀬を回遊することによる増加時間を算出

岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設の新規利用者の金公園地下駐車場利用台数

1,417 (台/年) + 2,345 (台/年) = 3,762 (台/年)

「金公園に関するアンケート調査 (R2)」において、公共施設である金公園来園前後の行き先は、柳ヶ瀬が 39.65%。

事業により増えた利用者のうち、柳ヶ瀬において飲食店及び小売店のいずれか 1 店舗 45 分 (飲食店滞在時間を 1 時間、小売店滞在時間を 30 分とした場合の平均) 滞在したと仮定すると、

3,762 (台/年) × 39.65% × 45/60 (時間/台) = **1,119 (時間/年)**

3) 現状の利用者の滞在時間が増えたことによる増加時間を算出

現状の柳ヶ瀬健康ステーションの利用者は、岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設の滞在時間と同程度と仮定しているため、増加分はなし。岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設は新規施設のため、現状の利用者なし。

4) 1) ~ 3) を合計し、事業による総利用時間の増加を算出

事業により増えた利用者による増加分…2,117 (時間/年)

事業により増えた利用者のうち、柳ヶ瀬を回遊することによる増加分…1,119 (時間/年)

1) ~ 3) の合計 **3,236 (時間/年)**

③目標値の設定

- ・令和9年度の推計値…308,203（時間/年）
- ・事業による効果
柳ヶ瀬広場整備事業…6,213（時間/年）
岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業
…3,236（時間/年）
 $6,213（時間/年） + 3,236（時間/年） = 9,449（時間/年）$
- ・目標値
 $308,203（時間/年） + 9,449（時間/年） = 317,652（時間/年）$
⇒ **318,000（時間/年）（R9年度）**

【フォローアップの時期】

本指標にかかる数値は、毎年度末の金公園地下駐車場の年間総利用時間とし、各事業の進捗や目標値の達成状況についてのフォローアップを翌年度5月～6月に行う。

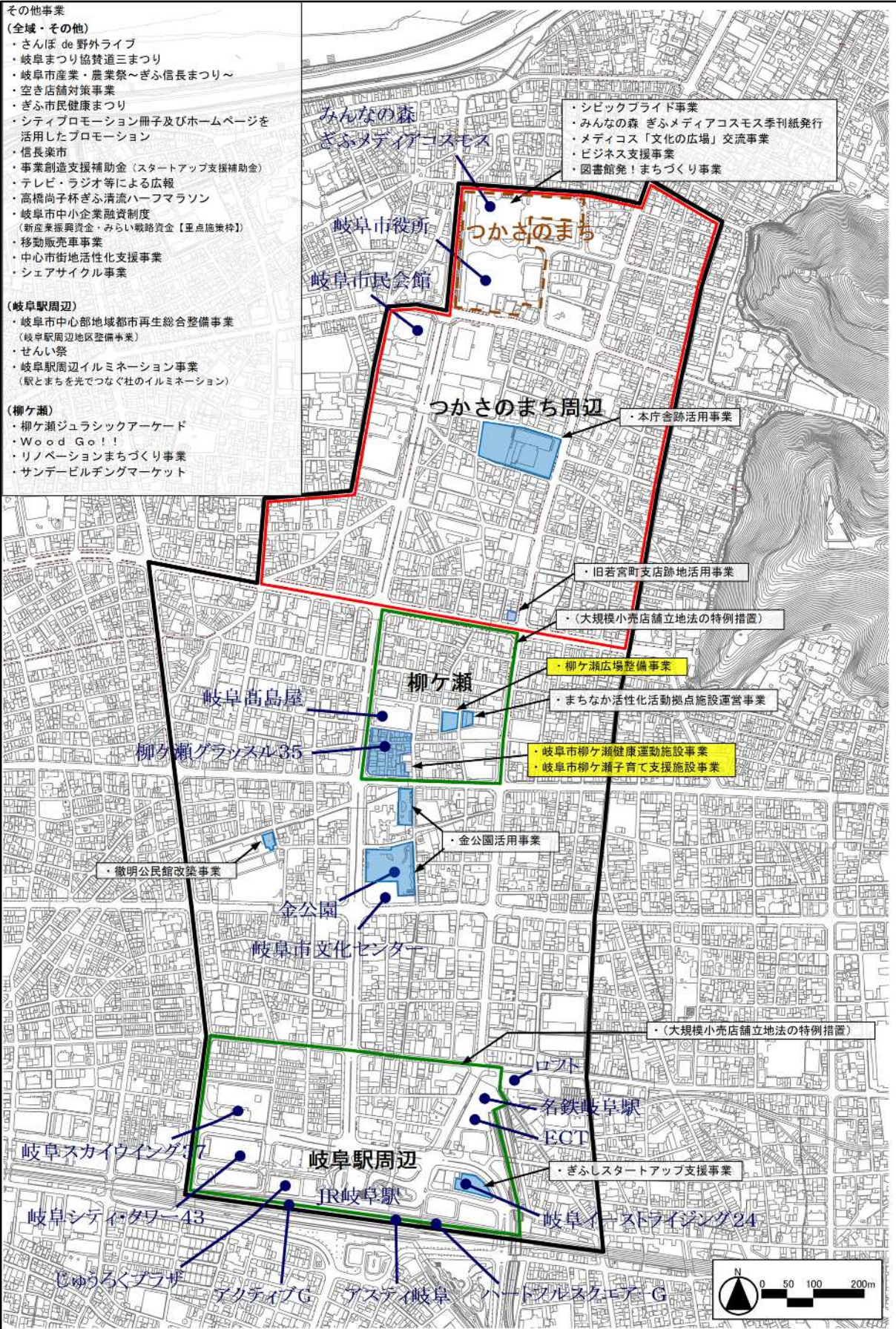
【フォローアップの方法】

事業の進捗状況の評価から、実績値に対する検証を行う。
また、目標設定に用いた各事業の計測値をもとに、目標設定における計算式により各事業の効果を算出し、その合計を事業による計算上の効果とすることで、実績値と比較検証する。

■事業ごとの計測値

事業名	計測値
柳ヶ瀬広場整備事業	整備後の広場利用者数（平日と休日の各1日、年1回調査）
岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業 岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業	施設ごとの年間施設利用者数 （当該年度の累計）

【目標指標（金公園地下駐車場の年間総利用時間）に関連する事業及び措置の実施箇所】



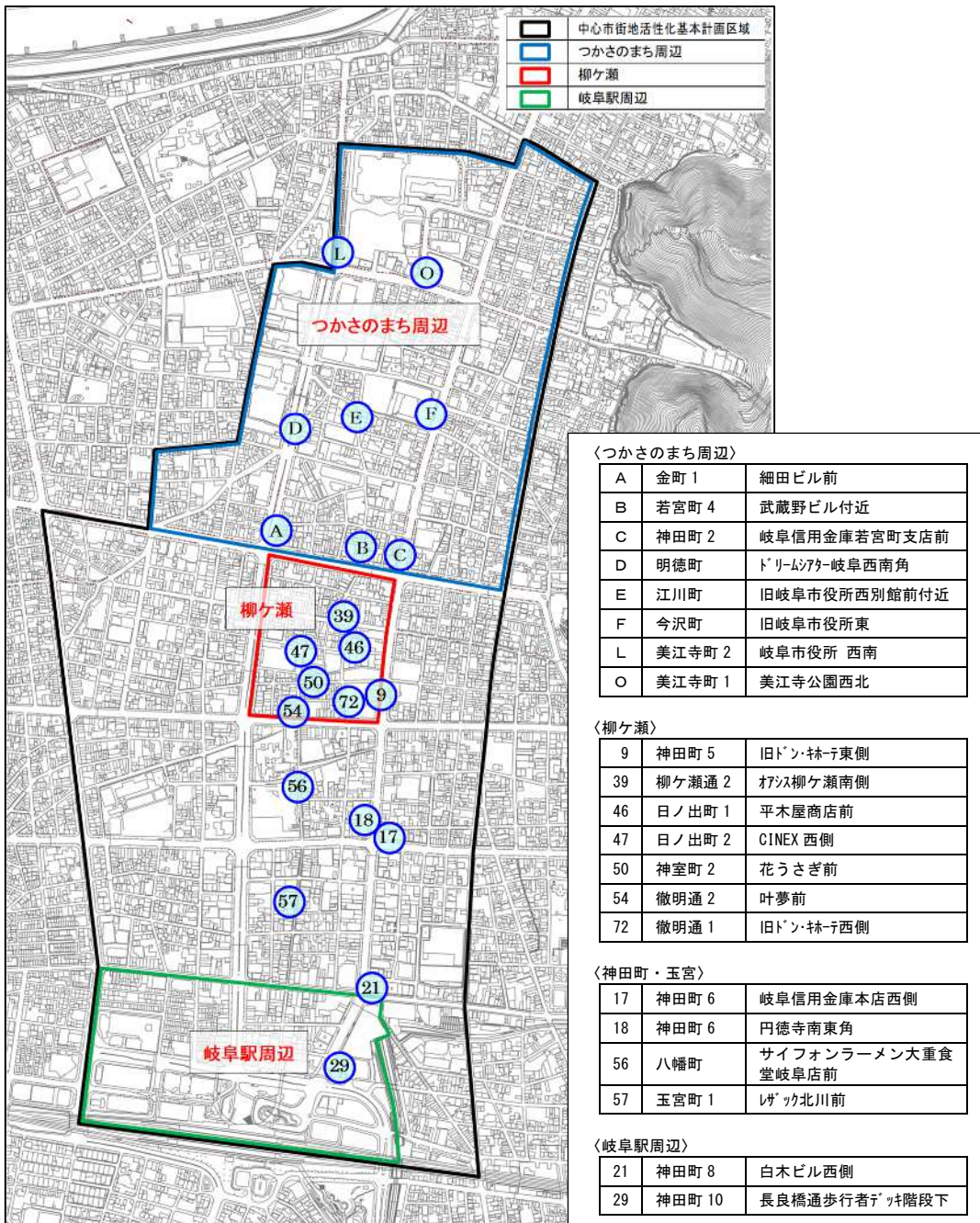
(2) 「歩行者・自転車通行量 [休日と平日の平均] (中心市街地の 21 地点)」に関する目標値の設定

基準値
38,600 (人/日) (R3 年度)



目標値
45,700 (人/日) (目標年度: R9 年度)

【調査地点図】

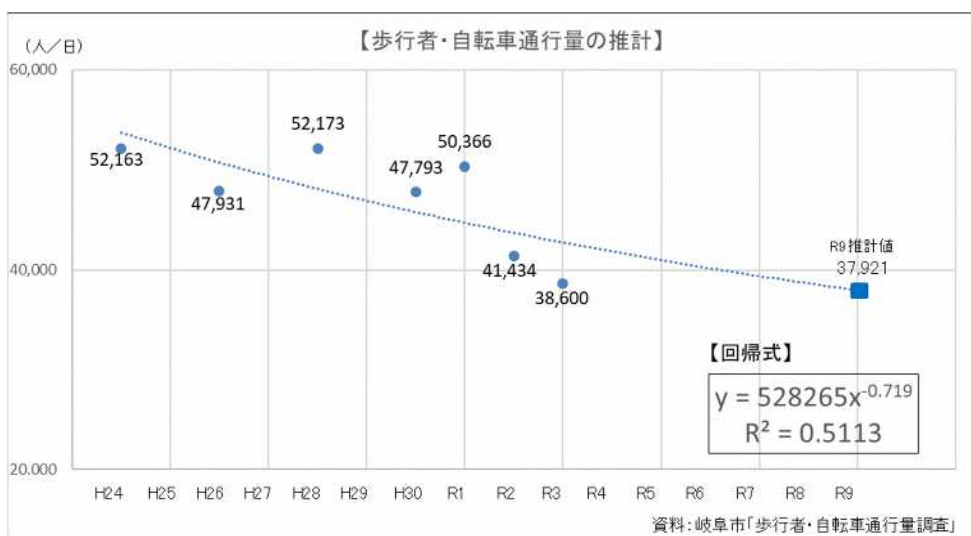


※図中の地点番号：岐阜市「歩行者・自転車通行量調査」の調査地点番号

- ＜目標設定の流れ＞ 令和3年度の数値を基準値とし、
- ①過去の傾向から、事業を実施しなかった場合の令和9年度の推計値を算出する。
 - ②事業による効果を算出する。
 - ③令和9年度の推計値に事業による効果を加え、令和9年度の目標値として設定する。

①目標年度の推計値（事業を実施しなかった場合）

過去10年間（平成24年度～令和3年度）の傾向を回帰式にあてはめて、令和9年度の数値を推計する。



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
歩行者・自転車通行量	52,163	—	47,931	—	52,173	—	47,793	50,366	41,434	38,600	/	/	/	/	/	/
回帰推計値	53,763	52,208	50,756	49,397	48,122	46,923	45,793	44,726	43,717	42,760	41,852	40,989	40,167	39,384	38,636	37,921

令和9年度の推計値（事業を実施しなかった場合）

37,921（人／日）

② 事業による効果

(ア) 算出方法

1) 考え方

事業効果の算出にあたっては、まず各施設の利用者数等に通行量発生原単位を乗じて各施設から発生する通行量を算出する。発生した通行者の移動は出発地点から同心円状に均等に広がるものと仮定するなかで、通行量調査対象地点において何人通行するか推計し、歩行者・自転車通行量の増加分とする。

まず通行量算出に必要な発生原単位と、各施設からの離隔距離と通行量の関係について整理し、その後、各施設の通行量増加分について整理する。

2) 発生原単位の設定

各施設で発生する人数を通行量の人数に変換する単位を発生原単位として設定する。

施設については、施設への往路・復路を考慮して増加数1人あたりの発生原単位を **2.0人** とする。

居住者については、中心市街地居住者は自動車以外のいずれの交通機関を利用する場合も自宅近隣は歩くものと考えられることから、パーソントリップ調査の自動車以外の1日当たり発生トリップ数を活用する。また、目的別では出勤、登校、業務、帰宅を除いた自由目的のみの発生トリップ数を活用する。

中京都市圏パーソントリップ調査(最新(平成23年))の中心市街地に該当する小ゾーンの発生トリップ数は以下の表のとおりとなっている。したがって、中心市街地の自由目的・居住者1人当たり・1日当たり発生トリップ数(0.706)の2倍(往復 **1.412人**) が発生原単位となる。

■中心市街地における交通手段別発生トリップ数 [平成23年、自由目的]

小ゾーン番号	主要町名	交通手段別トリップ数			夜間人口 B	1人当たり 発生トリップ数 A/B
		自動車	自動車以外 A	計		
20103	柳ヶ瀬通4～7他	2,991	2,545	5,536	6,463	0.394
20104	柳ヶ瀬通1～3他	3,312	4,395	7,707	4,627	0.950
20105	徹明通5～7他	1,523	1,702	3,225	3,973	0.428
20106	JR岐阜駅周辺	1,481	718	2,199	691	1.039
20107	名鉄岐阜駅周辺	3,685	3,750	7,435	2,817	1.331
	計	12,992	13,110	26,102	18,571	0.706

資料：中京都市圏総合都市交通協議会「中京都市圏パーソントリップ調査」

(注)パーソントリップ調査

パーソントリップ調査は、交通の主体である「人(パーソン)の動き(トリップ)」を把握することを目的とし、調査内容は、どのような人が、どこからどこへ、どのような目的・交通手段で、どの時間帯に動いたかについて、調査日1日の全ての動きを調べる。中京都市圏では、昭和46年に第1回、以下10年ごとに実施され、直近では平成23年に実施している。(令和3年度に予定していた調査は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっている。)

3) 各施設からの離隔距離と通行量の関係

中心市街地への来街者は、施設利用の後に品物を購入する、あるいは食事をする、といった形で中心市街地を回遊することも多い。そこで、来街者が発生する地点からの距離圏別に通行量の原単位を設定する。

この原単位を設定する事例として、平成 17 年 10 月の岐阜高島屋の増床(増床面積 1,800 m²)を活用する。

岐阜高島屋の増床前後で通行量が増加した調査地点は、次表の岐阜高島屋の増床に伴う通行量増加量のとおりである。この結果から、それぞれの距離圏の代表値は、岐阜高島屋の増床で大きな影響を受けた地点として上位 2 地点を抽出し、その平均値とする。

■岐阜高島屋の増床に伴う通行量増加量

岐阜高島屋からの距離圏	調査地点			H16	H18	増加量	代表値
	～50m圏	45	日ノ出町 2	シモン前	3,698	3,866	168
47		日ノ出町 2	C I N E X 西側	8,328	9,988	1,660	
73		金町 3	岐阜高島屋西側	2,120	3,698	1,578	
50～100m圏	51	金町 4	スギヤマクリーニング店前	2,452	2,648	196	648
	52	徹明通 2	森屋ビル前	1,784	2,158	374	
	54	徹明通 2	八雲前	7,148	8,070	922	

資料：岐阜市「歩行者・自転車通行量調査」

注 1) ～50m圏の代表値は、調査地点 47 と 73 の平均値とした。

注 2) 50～100m圏の代表値は、調査地点 52 と 54 の平均値とした。

以上を前提とすると、岐阜高島屋の増床は、店舗から 50m圏では 1,619 人/日、50～100m圏では 648 人/日、それぞれ通行量の増加に寄与したことになる。

この事例をもとに、100m圏以上の距離圏における通行量の増加分を推計し、通行量率を算出する。これについては「商業吸引力は距離の 2 乗に反比例する」という商圈算定モデル(ハフモデル)の考え方にに基づき算定した。

距離圏別の通行量率は、距離圏別通行量の増加分の推計値から算出すると以下の表のとおりである。

■距離圏別の通行量率

距離圏	～50m圏	50～100m圏	100～200m圏	200～300m圏
距離の2乗(m)	-	10,000	40,000	90,000
通行量増加分(人)	1,619 (実績)	648 (実績)	162 (推計)	72 (推計)
通行量率(%) (直近 = 100)	100	40.0	10.0	4.4

資料：岐阜市まちづくり推進部調べ

(注) 100～200m、200～300mの通行量増加分の推計方法

100～200m: 648 (50～100m実績値) × {10,000 (50～100mの代表距離 (100m) の2乗) / 40,000 (100～200mの代表距離 (200m) の2乗)}

200～300m: 648 (50～100m実績値) × {10,000 (50～100mの代表距離 (100m) の2乗) / 90,000 (200～300mの代表距離 (300m) の2乗)}

(イ) 柳ヶ瀬広場整備事業

1) 発生通行量を算出

先述の金公園地下駐車場の総利用時間と同様に、柳ヶ瀬広場整備事業により増えた利用者は次のとおり。

<平日>567 (人/日)

<休日>912 (人/日)

休日と平日の平均は、

$(567 \text{ (人/日)} \times 247 \text{ (R9 年度平日日数)} + 912 \text{ (人/日)} \times 119 \text{ (R9 年度休日日数)}) \div 366 \text{ (R9 年度日数)} = 679 \text{ (人/日)}$

発生通行量は、事業により増えた利用者発生源単位 (2.0) を乗じて算出する。

$679 \text{ (人/日)} \times 2.0 = \mathbf{1,358 \text{ (人/日)}}$

2) 通行量計測対象地点における通行量の算出

柳ヶ瀬広場整備事業と通行量計測対象地点との離隔距離から通行量を算出する。通行量は離隔距離と通行量率の関係より、発生通行量に通行量率を乗じて算出する。各計測地点と柳ヶ瀬広場整備事業との離隔距離による通行量率及び通行量増加分は下表とおり。

	柳ヶ瀬広場整備事業			
	事業により増えた利用者			679
	発生通行量			1358
対象地点	距離圏 (m)	通行量率 (%)	通行量増加分 (人)	
柳ヶ瀬	9	100~200	10.0%	136
	39	50~100	40.0%	543
	46	~50	100.0%	1358
	47	50~100	40.0%	543
	50	50~100	40.0%	543
	54	100~200	10.0%	136
	72	50~100	40.0%	543
玉宮・神田町	17	圏外		0
	18	圏外		0
	56	200~300	4.4%	60
	57	圏外		0
岐阜駅周辺	21	圏外		0
	29	圏外		0
つかさのまち周辺	A	200~300	4.4%	60
	B	200~300	4.4%	60
	C	200~300	4.4%	60
	D	圏外		0
	E	圏外		0
	F	圏外		0
	L	圏外		0
	O	圏外		0
柳ヶ瀬計				3802
玉宮・神田町計				60
岐阜駅周辺計				0
つかさのまち周辺計				180
4地区合計				4042

3) 事業による効果

柳ヶ瀬広場整備事業による通行量の増加… $\mathbf{4,042 \text{ (人/日)}}$

(ウ) 岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業

1) 発生通行量を算出

岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設については「高島屋南地区公共施設（健康・運動施設）管理運営計画」、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設については「岐阜市高島屋南地区公共施設整備事業基本計画」より、年間利用者数は以下のように設定されている。

岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設 : 55,500 人/年

岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設 : 80,000 人/年

2 施設の合計 : 135,500 人/年

年間稼働日数が 300 日で、年間利用者数 135,500 人と想定しており、1 日あたり利用者数は約 452 (人/日) となる。

発生通行量は、利用者数に発生源単位 (2.0) を乗じて算出する。

$$452 \text{ (人/日)} \times 2.0 = \boxed{904 \text{ (人/日)}}$$

2) 通行量計測対象地点における通行量の算出

各計測地点と岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業及び岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業との離隔距離による通行量率及び通行量増加分は下表とおり。

		岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業 岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業		
		利用者数	452	
		発生通行量	904	
	対象地点	距離圏 (m)	通行量率 (%)	通行量増加分 (人)
柳ヶ瀬	9	200~300	4.4%	40
	39	100~200	10.0%	90
	46	100~200	10.0%	90
	47	50~100	40.0%	362
	50	50~100	40.0%	362
	54	50~100	40.0%	362
	72	100~200	10.0%	90
玉宮・神田町	17	圏外		0
	18	圏外		0
	56	200~300	4.4%	40
	57	圏外		0
岐阜駅周辺	21	圏外		0
	29	圏外		0
つかさのまち周辺	A	圏外		0
	B	圏外		0
	C	圏外		0
	D	圏外		0
	E	圏外		0
	F	圏外		0
	L	圏外		0
	O	圏外		0
柳ヶ瀬計				1396
玉宮・神田町計				40
岐阜駅周辺計				0
つかさのまち周辺計				0
4地区合計				1436

利用者による通行量の増加… $\boxed{1,436 \text{ (人/日)}}$

3) 閉館日も含めた増加人数に補正

先述の通行量は開館日のものであるため、閉館日も含めた増加人数に補正する。

開館日 (300 日) 1 日あたりの増加人数 = 1,436 人
 ⇒ 閉館日も含めた 1 日あたりの増加人数 = 1,177 人
 ※ $1,436 \text{ (人/日)} \times \text{開館日 (300 日)} \div \text{R9 年間日数 (366 日)} = 1,177 \text{ (人/日)}$

閉館日も含めた通行量の増加…**1,177 (人/日)**

4) 柳ヶ瀬健康ステーションによる通行量を差し引く

現在ある柳ヶ瀬健康ステーションが岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設に統合されることから、柳ヶ瀬健康ステーションにより発生していた通行量を差し引く。

柳ヶ瀬健康ステーションの年間利用者数…7,150 (人/年) (R3)

閉館日も含め、1 日当たりの利用者数

$7,150 \text{ (人/年)} \div 366 \text{ 日 (R9 年間日数)} \div 20 \text{ (人/日)}$

発生通行量は、利用者数に発生源単位 (2.0) を乗じて算出する。

$20 \text{ (人/日)} \times 2.0 = 40 \text{ (人/日)}$

各計測地点と柳ヶ瀬健康ステーションとの離隔距離による通行量率及び通行量増加分は下表とおり。

		岐阜市柳ヶ瀬健康ステーション			通行量 増加分 (人)
		利用者数			
		発生通行量			40
	対象 地点	距離圏 (m)	通行量率 (%)		
柳ヶ瀬	9	200~300	4.4%	2	
	39	100~200	10.0%	4	
	46	100~200	10.0%	4	
	47	50~100	40.0%	16	
	50	100~200	10.0%	4	
	54	100~200	10.0%	4	
	72	200~300	4.4%	2	
玉宮・神田町	17	圏外		0	
	18	圏外		0	
	56	圏外		0	
	57	圏外		0	
岐阜駅周辺	21	圏外		0	
	29	圏外		0	
つかさのまち周辺	A	100~200	10.0%	4	
	B	200~300	4.4%	2	
	C	200~300	4.4%	2	
	D	圏外		0	
	E	圏外		0	
	F	圏外		0	
	L	圏外		0	
	O	圏外		0	
柳ヶ瀬計				36	
玉宮・神田町計				0	
岐阜駅周辺計				0	
つかさのまち周辺計				8	
4 地区合計				44	

柳ヶ瀬健康ステーションによる通行量…**44 (人/日)**

5) 事業による効果

閉館日も含めた通行量の増加…1,177 (人/日)

柳ヶ瀬健康ステーションによる通行量…44 (人/日)

1,177 (人/日) - 44 (人/日) = 1,133 (人/日)

岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業による通行量の増加… **1,133 (人/日)**

(エ) 前期計画掲載事業による効果

高島屋南地区第一種市街地再開発事業（柳ヶ瀬グラスル35）については、令和4年度中の完成を予定しており、人口増加分の事業効果は本計画期間である令和5年度以降の数値に反映される。以下は前期計画の積算に基づく。

1) 発生通行量の算出

高島屋南地区第一種市街地再開発事業による増加人数は587人である。供給戸数に1戸当たりの人数及び入居率を乗じて入居人口を算出すると下表のとおりである。

事業名	供給戸数(戸)	居住人口見込み(人)	入居率人口見込み(人)
高島屋南地区第一種市街地再開発事業	ファミリータイプ: 300	690	587

- ◆1戸あたりの人数
 - ・ファミリータイプ: 2.3人
 - ・単身: 1.0人
- ◆入居率: 85%

↑
事業による増加人数

増加人数に発生原単位を乗じて算出する。

$$587 \text{ 人} \times 1.412 = \boxed{829 \text{ 人/日}}$$

2) 通行量計測対象地点における通行量の算出

各計測地点と高島屋南地区第一種市街地再開発事業の実施箇所との離隔距離による通行量率及び通行量増加分は下表とおり。

高島屋南地区第一種市街地再開発事業				
		増加人口(人/日)	587	
		発生通行量(人/日)	829	
対象地点	距離圏(m)	通行量率(%)	通行量増加分(人)	
柳ヶ瀬	9	200~300	4.4%	37
	39	100~200	10.0%	83
	46	100~200	10.0%	83
	47	50~100	40.0%	332
	50	50~100	40.0%	332
	54	50~100	40.0%	332
玉宮・神田町	72	100~200	10.0%	83
	17	圏外	-	-
	18	圏外	-	-
	56	200~300	4.4%	37
岐阜駅周辺	57	圏外	-	-
	21	圏外	-	-
岐阜大学跡地周辺	29	圏外	-	-
	A	圏外	-	-
	B	圏外	-	-
	C	圏外	-	-
	D	圏外	-	-
	E	圏外	-	-
	F	圏外	-	-
	L	圏外	-	-
O	圏外	-	-	
柳ヶ瀬計				1,282
玉宮・神田町計				37
岐阜駅周辺計				0
岐阜大学跡地周辺計				0
4地区合計				1,319

< 事業概要 (前期計画記載内容) >

【事業名】

- ・高島屋南地区整備事業(高島屋南地区第一種市街地再開発事業)

【内容】

- ・敷地面積
約 6,500 m²
- ・規模構造
地上 35 階建
地下 1 階
- ・主要用途
住宅約 300 戸、商業施設、
公益的施設、駐車場

【実施時期】

- ・H24~R4

3) 事業による効果

高島屋南地区第一種市街地再開発事業による通行量の増加… **1,319 (人/日)**

(オ) 民間住宅供給による効果

平成 30 年度から令和 4 年度（計測期間のため、H29.10～R4.9 の期間）までに、再開発事業のほか、民間マンションが 6 棟約 420 戸完成している。

令和 5 年度から令和 9 年度においても、柳ヶ瀬広場整備事業や岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業など、まちなかで暮らしたくなるような環境づくりにより新たな民間投資が促されることで、同程度の大規模住宅供給を目指す。

通行量の増加の算出については、住宅供給する場所が決まっている必要があるため、平成 30 年度から令和 4 年度に建設されたエリアが住宅供給されやすいエリアと考えられることから、平成 30 年度から令和 4 年度に完成した民間マンションと同規模、同位置にて建設されるという仮定で算出する。

1) 発生通行量を算出

平成 30 年度から令和 4 年度に完成した民間マンションの供給戸数（分譲）をもとに、1 戸当たり人数 2.3 人、入居率 85% を乗じて入居見込み、発生原単位 1.412 人/日 を乗じて発生通行量を算出した。

名称	所在地	供給戸数 (戸)	入居見込み (人)	発生通行量 (人/日)
ライオンズ岐阜マークスフォート	金町5-16-3	52	101	142
ザ・パークハウス岐阜	金町6-17-1	56	109	153
プレサンスロジエ岐阜長良橋通り	神田町4-16	126	246	347
バン・ベール岐阜ザ・タワー	神田町4-9	107	209	295
レーベン岐阜	高野町7-15-1	42	82	115
レ・ジェイド岐阜金公園	蕪城町14-2	38	74	104

2) 通行量計測対象地点における通行量の算出

各計測地点と民間住宅供給箇所との離隔距離による通行量率及び通行量増加分は下表とおり。

	ライオンズ岐阜マークスフォート				ザ・パークハウス岐阜			プレサンスロジェ岐阜長良橋通り		
	対象地点	距離圏 (m)	通行量率 (%)	通行量増加分 (人)	距離圏 (m)	通行量率 (%)	通行量増加分 (人)	距離圏 (m)	通行量率 (%)	通行量増加分 (人)
				142			153			347
柳ヶ瀬	9	圏外		0	圏外		0	50~100	40.0%	139
	39	圏外		0	圏外		0	100~200	10.0%	35
	46	圏外		0	圏外		0	50~100	40.0%	139
	47	200~300	4.4%	6	圏外		0	100~200	10.0%	35
	50	200~300	4.4%	6	圏外		0	100~200	10.0%	35
	54	100~200	10.0%	14	圏外		0	100~200	10.0%	35
	72	200~300	4.4%	6	圏外		0	50~100	40.0%	139
玉宮・神田町	17	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	18	200~300	4.4%	6	圏外		0	圏外		0
	56	100~200	10.0%	14	200~300	4.4%	7	200~300	4.4%	15
	57	200~300	4.4%	6	100~200	10.0%	15	圏外		0
岐阜駅周辺	21	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	29	圏外		0	圏外		0	圏外		0
つかさのまち周辺	A	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	B	圏外		0	圏外		0	200~300	4.4%	15
	C	圏外		0	圏外		0	200~300	4.4%	15
	D	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	E	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	F	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	L	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	O	圏外		0	圏外		0	圏外		0
柳ヶ瀬計				33			0			555
玉宮・神田町計				27			22			15
岐阜駅周辺計				0			0			0
つかさのまち周辺計				0			0			31
4地区合計				60			22			602

	パン・ベール岐阜ザ・タワー				レーベン岐阜			レ・ジェイド岐阜金公園		
	対象地点	距離圏 (m)	通行量率 (%)	通行量増加分 (人)	距離圏 (m)	通行量率 (%)	通行量増加分 (人)	距離圏 (m)	通行量率 (%)	通行量増加分 (人)
				295			115			104
柳ヶ瀬	9	50~100	40.0%	118	圏外		0	200~300	4.4%	5
	39	100~200	10.0%	30	圏外		0	圏外		0
	46	50~100	40.0%	118	圏外		0	200~300	4.4%	5
	47	100~200	10.0%	30	圏外		0	200~300	4.4%	5
	50	100~200	10.0%	30	圏外		0	100~200	10.0%	10
	54	200~300	4.4%	13	圏外		0	100~200	10.0%	10
	72	100~200	10.0%	30	圏外		0	100~200	10.0%	10
玉宮・神田町	17	圏外		0	圏外		0	100~200	10.0%	10
	18	圏外		0	圏外		0	100~200	10.0%	10
	56	圏外		0	圏外		0	~50	100.0%	104
	57	圏外		0	200~300	4.4%	5	200~300	4.4%	5
岐阜駅周辺	21	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	29	圏外		0	圏外		0	圏外		0
つかさのまち周辺	A	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	B	200~300	4.4%	13	圏外		0	圏外		0
	C	200~300	4.4%	13	圏外		0	圏外		0
	D	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	E	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	F	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	L	圏外		0	圏外		0	圏外		0
	O	圏外		0	圏外		0	圏外		0
柳ヶ瀬計				367			0			45
玉宮・神田町計				0			5			129
岐阜駅周辺計				0			0			0
つかさのまち周辺計				26			0			0
4地区合計				393			6			175

※合計欄にて、小数点以下がある場合、切り上げ

3) 民間住宅供給による効果

60 (人/日) + 22 (人/日) + 602 (人/日) + 393 (人/日) + 6 (人/日)
+ 175 (人/日) = 1,258 (人/日)

民間住宅供給による通行量の増加… **1,258 (人/日)**

③ 目標値の設定

- ・令和9年度の推計値…37,921（人/日）
- ・事業による効果
柳ヶ瀬広場整備事業…4,042（人/日）
岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業
…1,133（人/日）
前期計画掲載事業による効果…1,319（人/日）
民間住宅供給による効果…1,258（人/日）
 $4,042（人/日） + 1,133（人/日） + 1,319（人/日） + 1,258（人/日）$
 $= 7,752（人/日）$
- ・目標値
 $37,921（人/日） + 7,752（人/日） = 45,673（人/日）$
⇒ **45,700（人/日）（R9年度）**

【フォローアップの時期】

本指標にかかる数値は、岐阜市「歩行者・自転車通行量調査」の休日と平日各1日における中心市街地の21地点の合計から、休日と平日の平均を算出した数値とし、各事業の進捗や目標値の達成状況についてのフォローアップを翌年度5月～6月に行う。

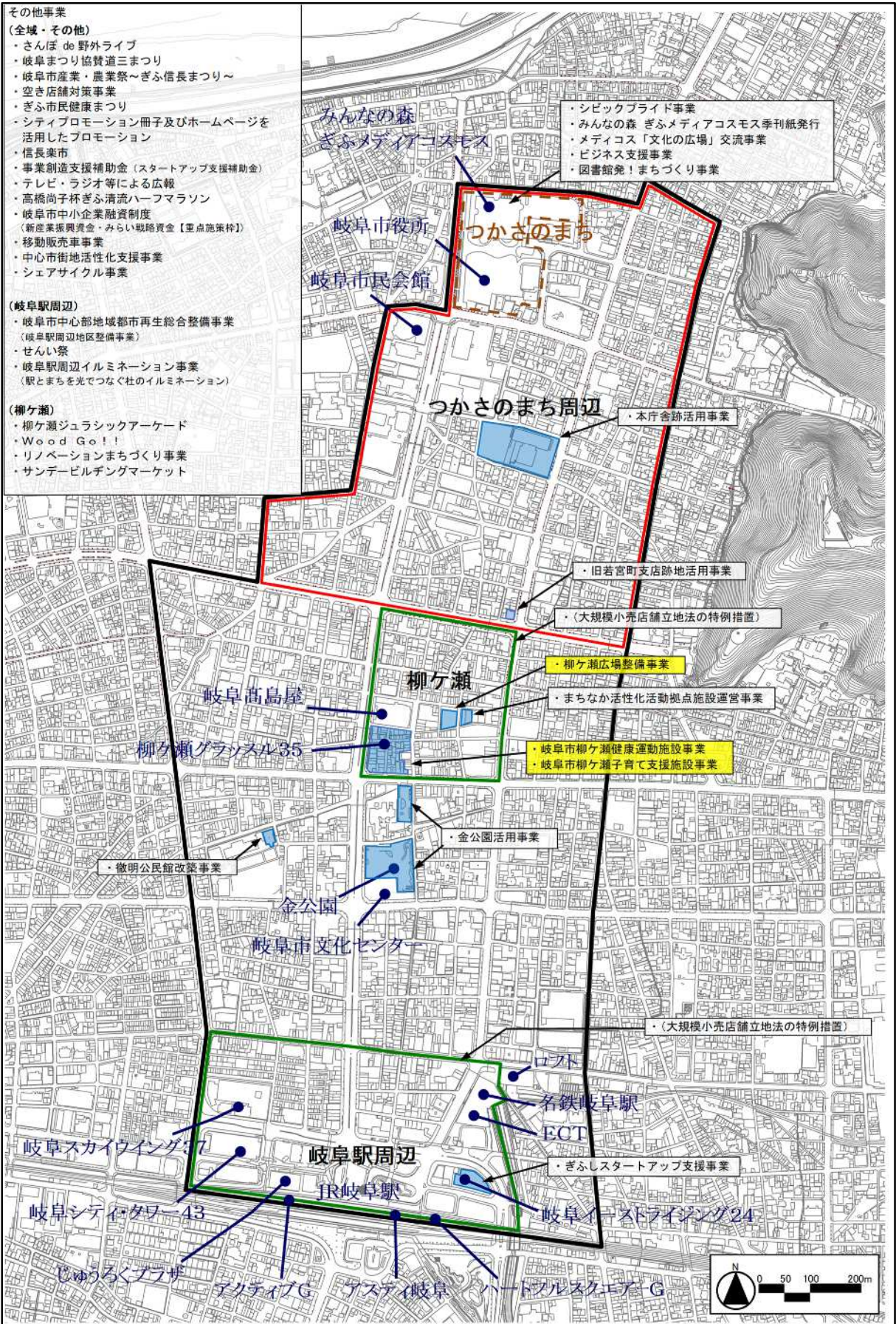
【フォローアップの方法】

事業の進捗状況の評価から、実績値に対する検証を行う。
また、目標設定に用いた各事業の計測値をもとに、目標設定における計算式により各事業の効果を算出し、その合計を事業による計算上の効果とすることで、実績値と比較検証する。

■事業ごとの計測値

事業名	計測値
柳ヶ瀬広場整備事業	整備後の広場利用者数（平日と休日の各1日、年1回調査）
岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業 岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業	施設ごとの年間施設利用者数 （当該年度の累計）
前期計画掲載事業による効果 高島屋南地区第一種市街地再開発事業 （柳ヶ瀬グラスル35）	住宅供給戸数
民間住宅供給	住宅供給戸数

【目標指標（歩行者・自転車通行量）に関連する事業及び措置の実施箇所】



(3) 「居住人口の人口動態」に関する目標値の設定

基準値	目標値
▲183 (人) (H30～R4 年度の累計)	400 (人) (目標年度：R5～R9 年度の累計)

＜目標設定の流れ＞ 平成 30 年度から令和 4 年度までの累計を基準値とし、
①過去の傾向から、大規模住宅供給がない場合の令和 5 年度から令和 9 年度までの累計の推計値を算出する。
②本計画期間の効果を算出する。
③令和 5 年度から令和 9 年度までの累計の推計値に本計画期間の効果を加え、令和 5 年度から令和 9 年度までの累計の目標値として設定する。

① 目標年度の推計値（大規模住宅供給がない場合）

(ア) 過去の傾向

平成 30 年度から令和 4 年度までの人口動態は次のとおり。

＜社会増減数＞ 318 (人) (H30～R4 年度累計)

＜自然増減数＞ ▲501 (人) (H30～R4 年度累計)

＜人口動態＞ 318 (人) + ▲501 (人) = ▲183 (人) (H30～R4 年度累計)

※資料：岐阜市「住民基本台帳」をもとに岐阜市まちづくり推進部作成

中心市街地活性化基本計画区域 155ha

各年度の数値は前年 10 月から当年 9 月までの数値

(イ) 令和 5 年度から令和 9 年度までの累計の推計値を算出

＜社会増減数＞

過去 5 年間の内で大規模住宅供給がなかった平成 30 年度は▲71 (人)。

同様に推移すると仮定すると、社会増減数の令和 5 年度から令和 9 年度までの累計は次のとおり。

▲71 (人) × 5 年間 = ▲355 (人) (R5～R9 年度累計)

＜自然増減数＞

過去 5 年間の平成 30 年度から令和 4 年度までの累計で▲501 (人) であり、1 年間あたり約▲100 (人)。

同様に推移すると仮定すると、自然増減数の令和 5 年度から令和 9 年度までの累計は次のとおり。

▲100 (人) × 5 年間 = ▲500 (人) (R5～R9 年度累計)

<人口動態>

よって、大規模住宅供給がない場合の人口動態の令和5年度から令和9年度までの累計は次のとおり。

$$\blacktriangle 355 \text{ (人)} + \blacktriangle 500 \text{ (人)} = \boxed{\blacktriangle 855 \text{ (人) (R5~R9 年度累計)}}$$

② 本計画期間の効果

(ア) 3期計画掲載事業による効果

高島屋南地区第一種市街地再開発事業（柳ヶ瀬グラスル35）については、令和4年度中の完成を予定しており、事業効果は本計画期間である令和5年度以降の数値に反映される。以下は前期計画の積算に基づく。

高島屋南地区第一種市街地再開発事業の効果…**529 (人)**

(イ) 民間住宅供給による効果

平成30年度から令和4年度（計測期間のため、H29.10~R4.9の期間）までに再開発事業のほか、民間マンションが6棟約420戸完成している。

令和5年度から令和9年度においても、柳ヶ瀬広場整備事業や岐阜市柳ヶ瀬健康運動施設事業、岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設事業など、まちなかで暮らしたくなるような環境づくりにより、新たな民間投資が促されることで、同程度の大規模住宅供給を目指す。

民間住宅供給により増加する社会増減数の算出には、1戸あたり人数2.3人、入居率85%、域内転居率10%（岐阜市まちづくり推進部調べ）を採用。

$$420 \text{ (戸)} \times 2.3 \text{ (人/戸)} \times 85 \text{ (\%)} \times 0.9 \text{ (\%)} \div \boxed{739 \text{ (人)}}$$

③ 目標値の設定

・令和5年度から令和9年度までの累計の推計値…**▲855 (人)**

・本計画期間の効果

前期計画掲載事業による効果…529 (人)

民間住宅供給による効果…739 (人)

$$529 \text{ (人)} + 739 \text{ (人)} = 1,268 \text{ (人)}$$

・目標値

$$\blacktriangle 855 \text{ (人)} + 1,268 \text{ (人)} = 413 \text{ (人)}$$

$$\Rightarrow \boxed{400 \text{ 人 (R5~R9 年度累計)}}$$

【フォローアップの時期】

本指標にかかる数値は、岐阜市「住民基本台帳」の町丁目別集計（毎月）における人口動態をもとに、前年10月から当年9月までの1年間の数値とし、各事業の進捗や目標値の達成状況についてのフォローアップを翌年度5月～6月に行う。

【フォローアップの方法】

事業の進捗状況の評価から、実績値に対する検証を行う。

また、目標設定に用いた各事業の計測値をもとに、目標設定における計算式により各事業の効果を算出し、その合計を事業による計算上の効果とすることで、実績値と比較検証する。

■事業ごとの計測値

事業名	計測値
前期計画掲載事業による効果 高島屋南地区第一種市街地再開発事業 (柳ヶ瀬グラスル35)	住宅供給戸数
民間住宅供給	住宅供給戸数

【目標指標（居住人口の人口動態）に関連する事業及び措置の実施箇所】

